

第188回 令和8年3月5日（木）

「期待・信頼と信用・信任。」

指導者としてプレイヤーに期待することは当然あります。上司になったり、先輩になったり、責任のある立場になった時にも新しい人に期待する機会は多いでしょう。

でも「期待」はときに逆効果になることもあります。こちらが期待していることが相手にしっかり伝わっていなかったとか、期待が大きすぎることでプレッシャーに負けてしまうこともあります。

期待は「期して待つ」ということ。つまり期するのも、待つのも上司の側です。「待たれている」ことを意気を感じる場合もありますが、それに気づかなかった、もしくは期待が大きいためそこから逃げたくなってしまうこともあります。

待つほうも待たれるほうもしっかり意図を伝えあうことが大事だと思います。期待を裏切られて怒りを持つ人もいますが、相手が望んでいたことなのか考える必要があります。

同じく「信頼」も良い言葉ですが「信じて頼る」ということです。頼られているほうの気持ちをしっかり理解できているかどうか確認が必要です。

一方「信用」は「信じて用いる」、信任は「信じて任せる」です。ある一定の責任ある立場を明確に与えることで部下の側にも覚悟が生まれます。信頼や期待よりも組織的といえるのかもしれませんが、もちろん信用したほうにも責任があるので失敗した際は覚悟が必要です。用いられた人、任された人にも責任が生まれるので自覚が芽生えるように感じます。

何らかの目に見える形での責任を背負わせることで人間は成長します。信頼や期待が精神的な部分の割合が大きいのに、信用や信任は「こっちが責任をとるからやってみなさい」という実務的な部分が多いのかなと考えています。

失敗は成功するための調味料ですから、そのポストがいまは荷が重くても、経験によっていつかそれに見合う人材に変わっていくはずです。

若いころは指導していたプレイヤーが実戦で期待に応えられないとイライラしたこともありました。つい強めの口調になってしまったこともあります。でもあるとき本を読んで「期待するから腹が立つ。期待はかけるほうの片思いだということを忘れてはいけない」と書いてあるのを見て、それからあまりイライラすることがなくなりました。

期待するなら形にして信用に足る役目を与えるべきだと思います。